

第2回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会

日 時 平成30年8月20日(月) 午後6時34分～午後8時11分

場 所 本庁舎3階 第一会議室

出席委員 7人

委員長	渡 邊 嘉二郎	委員		
委員	松 本 敏 朗	委員	鴨 下 明 子	委員
	橋 田 壤 志	委員	本 間 紀 行	委員
	小 宮 貴 大	委員	天 野 建 司	委員

欠席委員 2人

副委員長	小 川 順 弘	委員
委員	沼 崎 明 大	委員

---

市説明員

広報秘書課長 天 野 文 隆

---

事務局職員

企画政策課長	梅 原 啓太郎
企画政策課企画政策係長	古 賀 誠
企画政策課企画政策係主任	金 原 真紀子

---

傍 聴 者 4人

(午後6時34分開会)

◎渡邊委員長 出席予定の委員が全員そろいましたので、ただいまから第2回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会を開催したいと思います。

皆さんのお手元に、今日配った資料として4枚あるかと思いますが、まず、今日の式次第と配付資料一覧という1枚の紙。それから、資料1として、シティプロモーション基本方針(たたき台)。それから、資料3として、この1枚の「長期総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について」。それから、もう1枚、ペラの資料で「差し替え分」と書いてあるものがあるはずです。皆さん、ございますでしょうか。

それから、今日は前回市のほうからいただいた資料4という厚い冊子、これを見ながらということですが。

それでは、この次第に基づいて、まず、第1議題の「シティプロモーションについて」、議論をしたいと思います。

本日は広報秘書課長さんが出席しておりまして、小金井市シティプロモーション基本方針(たたき台)、この資料について説明していただきます。よろしくお祈いします。

◎天野広報秘書課長 本日は貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。私は広報秘書課長の天野と申します。どうぞよろしくお祈いいたします。

本市では、今年度中にシティプロモーション基本方針を策定する方向で取り組んでいるところでございます。小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略におきまして、基本目標1として、「小金井市の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち」が挙げられており、その達成に向けた基本的方向2として、「小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進」が挙げられていることから、小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会の皆様にも、この総合戦略を推進する立場から御意見をいただきたく、本日、基本方針のたたき台を資料として配付させていただいております。

本日、急にこの場で御議論いただくわけにもいかないと思いますので、本日は簡単な資料説明にとどめまして、お持ち帰りいただいた上で、次回、御意見を賜ればと思います。

では、簡単に資料の説明をさせていただきます。表紙をおめくりいただきますと、裏面が目次となっております。基本方針の構成は、目次に記載のとおり、1、シティプロモーションとは、2、本市の現状と課題、3、基本的な考え方、4、推進体制、5、資料編となっております。なお、資料編につきましては、調査に一定期間を要しますことから、これから作成する予定でございまして、本日お示しした資料には、4、推進体制までとなっております。

まず1、シティプロモーションとはでは、基本方針の策定の背景として、少子高齢化が進展する中、持続可能なまちとするために、交流人口の増加や定住化の促進が必要なこと、策定の目的として、今後、選ばれるまちとなるためには、これまで行ってきた個別の魅力発信だけではなく、方針に基づいて戦略的・継続的に推進する必要があること、それから、基本方針の位置付けとしまして、本市の最上位計画である第4次小金井市基本構想・後期基本計画や小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略との関係性について記載しております。

次に、2、本市の現状と課題では、基本方針を策定する上で踏まえるべき現状と課題の整理を行っており、人口動態として、老年人口の増加が顕著であり、近い将来、人口のピークを迎え、減少に転じると推測されること、転入・転出状況として、20代から30代前半の転入が多く、20代後半については、転入より転出が上回っているという特徴、アンケートの結果から得た定住意向についての割合などを示しております。

なお、(3)定住意向につきましては、今後、平成30年度市民意向調査及び本市と連携協力関係にある大学・専門学校の学生を対象としたアンケートの結果が出た後に、最新のデータに差し替える予定でございします。

次に、3、基本的な考え方では、2、本市の現状と課題で整理した結果をもとに、シティプロモーションを進めていく際の視点として、「誰に」「何を」「どのように」の3つを示しており、ターゲットとしては、若年層、特に20代後半。発信すべき内容としては、豊かな自然

環境、生活の利便性、安全・安心の3つを中心とすることを示しています。また、発信方法として、市報、ホームページ、ツイッターの3つのツールと、パブリシティについてそれぞれ特徴を記載しております。

最後に、4、推進体制では、庁内の推進体制として、全庁が連携して取り組んでいく体制を図示し、さらに、行政のみではなく、関係団体や市民とも連携し、オール小金井で取り組む必要があることから、観光大使制度のさらなる活用、関係団体との連携、市民との連携、小金井市イメージキャラクター「こきんちゃん」の有効活用についてそれぞれ記載し、その体制を図示しております。

そして、最後に、今後の推進体制として、専門部署の新設について検討課題として挙げております。

簡単ではございますが、資料の説明は以上となります。

基本方針の構成、上位計画との位置づけ、あるいは個々の内容等につきまして、次回の委員会におきまして御意見をいただければと思います。

以上、よろしく願いいたします。

◎渡邊委員長 どうもありがとうございました。

ただいま広報秘書課長の天野さんからシティプロモーションについて説明がございました。本格的な議論は次回にするとして、この資料をお持ち帰りになって、少し見ていただいて、御意見等を賜りたいのですけれども、今日のところで、もし質問とか、あるいは、今ちょっと思いつくようなシティプロモーションの内容、コンテンツとか、方法について、何かコメント等があれば承りたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

シティプロモーションというのは、結局は、小金井市のいろいろな計画で考えられている魅力を、単発的にPRするのではなくて、総合的に広報、PRして、小金井の実質的な魅力を実質的に発信していきたいという、要するに市のPRということだと思んですけども、いろいろな新しい情報通信媒体、ネットワーク等を通してやるということ、それから、今まで議論してきた小金井市の魅力、そして、環境と都市基盤、地域と経済、文化と教育、福祉と健康という観点での魅力、こういうことを発信していきたいということでございます。

何か質問ございませんか。よろしゅうございますか。

◎松本委員 感想になるんですが、今日、こういう資料が出てくるとは思わなかったので、一応、自分でドラフトみたいな、筋書きみたいなものを考えていたんですけど、そういうのが盛り込まれていて、いいのではないのかなというふうに思います。

シティプロモーションについては、前にいただいた資料に定義がありまして、「地域の魅力を内外に発信し、周知を図ることにより、地域住民においては地域への愛着を育み、市外に住む人における地域に対するイメージを向上させ、交流人口の増加や転入促進を図ろうとするPRの考え方」。つまり、小金井市のイメージを向上させて、目的として、できれば交流人口や定住促進ということを支援しようという施策にこれを使うというふうな定義ですね。これは考

え方としては同じことでいいですね。

そうすると、まち・ひと・しごとで、さっき言われたように、いくつかの基本目標があって、基本的な方向があって、基本的方向2として、シティプロモーションの推進というのが挙がっているんですけども、その中身が、この前からいろいろ議論しているように、7から11までの個別の事項が挙げられているわけですね。この関連性というのが理解できないというか、最初から疑問に思っていて、ずっと議論しているところなんですけれども、これについてはどういうふうな整理をされているのか、いないのか、これはもうすっ飛ばして、また新しい観点から、このシティプロモーションというものを何か新しい概念で構築しようとするのか、この延長線上にあるのか、その辺は整理をしておいたほうが後々混乱しないのではないのかなというふうに思いますので。それが1点です。

それからもう一点ですが、ペーパーには、切り口として「誰に」「何を」「どのように」という3点があげられています。中学生のときに、報道記事には5W1Hという要素を織り込まなければいけないということを習った記憶があります。5W1Hというのは、何のために、何を、誰に対して、いつ、誰が、どのように行うかということなんですけれども、このシティプロモーションの基本方針についても5W1Hというアイデアを借りて、具体的な方法や展開の仕方について、あるいは時間軸について、整理をされるほうがいいのではないのかなと思います。感想としては以上です。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

一つは、このまち・ひと・しごと創生総合戦略とか、その前の第4次の長期計画というものがあると。これと、このシティプロモーションがどういう関わり、関係を持っているかを、構造的にはっきりしておいたほうがいいんじゃないかという御指摘ですね。

◎松本委員 そうです。

◎渡邊委員長 それからもう一つは、このシティプロモーションの計画を考えるときに、この3つのWhoとWhatと、これは「何を」ということなんですけれども、それからHowしかないけれども、何のためにという目的とか、When、Whereから始まってそういうことも分かりやすく表現したほうがいいんじゃないかと、そういう感想、ご意見ということですね。

◎松本委員 役所の中で担当が不明確になる可能性があるので、そういう意味で、きちんと縦横の整理をしておくほうがいいのではないかと思います。

◎渡邊委員長 このシティプロモーションは基本的にはPRですね、広報だと思うんですね。ほかにございませんか。

この推進の仕方についていろいろ考えたほうがいかなという気は僕はしているんですけどね。やっぱり行政にどっぷりいる、失礼ですけども、いる方というのはPRが下手だと思うので、どっちかといったら、どこの市も大体、外注とは言いませぬけれども、そういう得意な民間人に協力を仰いだりしていますよね。ほかにございますか。

◎鴨下委員 今、委員長がおっしゃっていたことが、すごいずっと私、前回から思っていて、

予算のせいなのかなとか思いながら、民間人、広告のプロの方にアドバイスとかコンサルタントを受けるとか、もちろん、決して今のが悪いとか、広報さんのやっていることがだめと言っているわけではなくて、もっとよいものを求め、出していくのであれば、目にとまるものを常に世に送り続けているプロの意見やアドバイスを受けて、伝わりやすいものを作っていけないのかなとずっと思っていたんですけど、予算かなという。すみません。すごく疑問でした。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

やっぱり市役所の行政の方は、行政の中の縛りがあって、そこからはみ出せないという、はみ出しにくいということもあるかもしれませんけれども、あるんでね。場合によっては、予算との関わりもあると思うんですけども、そういう外部の知恵というのをお願いするということも必要かもしれませんね。それから、本当は市役所の皆さんが、民間人並みに、砕けた発想でいろいろやってもらうということも重要かもしれません。感想です。

シティプロモーションについて、何かほかにございますか。

今日出たようなのをどこまで組み込めるかは別として、いずれにしろ、次回までにこれを読み込んでいただいて、いろいろと御意見を賜ればと、そういうふうに思っております。

◎小宮委員 すみません、アンケートのところで、住み続けたいというか、そういう意味でアンケートをとっていると思うんですけども、何で住み続けたくないのというか、例えば転出者、多分、これってどう考えてもぱっと見で、学生さんがもう大学を卒業してしまえば出ていくというのが転出理由として多いんだろうというところで、なぜ出ていくのかというところのアンケートみたいなものはとったりしているのかなと、ちょっとこれだけだとよく意味が、何かそういうのも加えているのかなというところを一つ聞いてみたいと思ったんですけども。

◎天野広報秘書課長 アンケートにつきましては、今、使っているアンケートというものは、このシティプロモーションの基本方針を策定するために実施したアンケートではなくて、単純に市民の意向を確認したものを今は使わせていただいております。こちらに、今後、「差し替え」と記載しておりますけれども、この学生アンケートというのは、これを策定するためにするアンケートですので、今おっしゃられたような内容も含めた形で行っております。

◎小宮委員 ありがとうございます。

◎渡邊委員長 ほかに、このシティプロモーションについて、御質問等ございますか。

なければ、この第1議題、これで終了したいのですけれども、よろしゅうございますでしょうか。どうもありがとうございました。

(広報秘書課長 退席)

---

◎渡邊委員長 それでは、本日の、シティプロモーションもそうなんですけれども、メインとなる、前回、頭出した「小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」施策の効果検証についてということで、こちらの資料をもとにして少し細かく見ていこうということをやりたいと思います。それに先立って事務局のほうから発言の要望がございますので、これについてご説明

をお願いします。

◎梅原企画政策課長 お手元に前回の資料3、右肩に四角で囲んだ資料3と書かれております資料をお配りさせていただいていると思います。「長期総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について」というタイトルになっておりますが、お手元にございますでしょうか。

前回、長期総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について、また、本市における計画、それから、本委員会で議論していただきたい事項ということで御説明させていただきました。このことに関しまして、ちょっと一部訂正の説明をさせていただくと、併せまして、この内容について改めて御説明させていただきたいと思います。こちらの資料を見ながらお聞きいただきたいと思います。

現在、小金井市には、第4次基本構想・後期基本計画と、まち・ひと・しごと創生総合戦略という2つの市政全般にわたる計画がございます。市の最上位計画であります基本構想等長期総合計画は平成32年度までの期間となっております。平成33年度から始まる新たな計画策定を予定しております。一方、まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、平成31年度までの計画となっております。1年早く終了いたします。

そのような状況におきまして、議会で議決を受けます10年後の将来像実現を目指す基本構想と、国の要請もあり、平成72年までの人口を見通した人口ビジョンに基づく、人口減少社会に対応する5年間のまち・ひと・しごと創生総合戦略、この2つの計画は、整合をとりつつも、市政全般にわたる2つの計画が存在しているということで事務効率的にも課題があるというふうを考えております。

この課題解決に向けまして、今後、この2つの計画を統合していくに当たりましては、まず、計画の終了年度を合わせる必要がありまして、前回、まち・ひと・しごと創生総合戦略の1年延伸ということで御説明もさせていただいたところでございます。

次に、2つの計画を統合するためのプロセスでございますが、今後策定される長期総合計画を、まち・ひと・しごと創生総合戦略と同様、長期的視点、特に人口減少社会という社会潮流等を見据えて計画策定を行わなければならないというふうを考えております。

なお、国においても、第32次地方制度調査会にて「将来の人口減少社会にどう対応すべきか」について、市町村の職員が従来の半分になっても必要な住民サービスを提供できるかなど、スマート自治体についても議論されるそうでもあります。

したがって、2つの計画統合のため、本委員会では、30年から40年先を意識した本市のあるべき姿や長期ビジョン等を御検討いただき、その経過をもって、次期長期総合計画につなげてまいりたいというのが趣旨でございます。これは現状のまち・ひと・しごと創生総合戦略の見直し、また、解体、そして統合という意味にもなるものでございます。

それから、こちらの資料にもあります、先ほども御説明させていただきましたシティプロモーションでございます。また、少子高齢化の進行、人口減少社会等の社会潮流において、愛着と誇りの持てる、住みやすい、住み続けたい、住んでみたいという、「選ばれるまち」づくり

を目指すことから、市内外においてシティプロモーションを行っていくこと、こちらについても重要な方針になるというふうに考えております。

それから、最後に、訂正部分になります。前回、委員会資料といたしまして、小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会設置要綱についてお配りさせていただきました。この中に「小金井グランドデザインの策定」などの表現がございますけれども、「小金井グランドデザイン」という新たな計画は策定しないこととしておりますので、この部分については、今後、要綱を改正させていただきますので、この点、御理解をお願いしたいと思います。

◎**渡邊委員長** ありがとうございます。

前回お配りした要綱に、「小金井グランドデザイン」という条項が入っていたと思うんですけども、それはないということで、ただ、実質的には多分、内容的には同じようなことを議論するという事になるかと思えます。

ただいまの説明について何か質問ございますか。

◎**松本委員** ちょっといいですか。先ほど、シティプロモーションについて、広報秘書課長のほうから説明があったんですけども、シティプロモーションということで考えていらっしゃるの、広報のところだけなのか、あるいは、広報のほうから逆にバックしてきて、訴えるべきものについても何か議論していくということまで視野に入れているのか、ということについてさっきの説明では、そういうのは切り離して、広報の手法的な、技術的なところをやるんだというような説明を聞いていたんですけども、今、お話を聞いていると、どうもそこからもう一回バックしてくるということまで含んでいらっしゃるような気がするんですけど、その辺の整理はどうなっているのでしょうか。

◎**梅原企画政策課長** 先ほど、シティプロモーションの基本方針の案ということで御説明させていただきました。まず、今回と次回ということで、この場で御議論いただきたい内容については、この基本方針のたたき台についてのさまざまご意見等をいただきたいというのが中身になります。

もともとシティプロモーションということにつきましては、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中の一部ということでございますので、今日の評価シート、それぞれの事業の評価シートもいただいておりますけれども、こちらについての御議論の中等で幅広く御意見についてはいただきたいと思っております。何か限定するというのではなくて、基本方針は基本方針として御議論いただきたいんですけども、もともとの創生総合戦略の中で、この評価シートについて御議論いただく中でさまざまな御意見をいただきたいと思っております。

◎**松本委員** そうすると、このシティプロモーションだけを切り離して、ここでテーマとして挙げるというのはどういう背景があるんですか。どういう意味合いがあるのでしょうか。

◎**梅原企画政策課長** シティプロモーションを特にここで強調させていただいておりますのは、ここで第5次基本構想ということで新たな計画を作っていくわけですけども、この検討に当たっては、やはり一つ重点を置かなければいけない事項というふうに考えておまして、そこ

で、このまち・ひと・しごとの委員会の中でぜひ御意見をいただきたいというのが考えでございます。

◎**渡邊委員長** 委員長の理解としては、シティプロモーションは広報であるということですね。広報で発信すべき中身等については、まち・ひと・しごとの中の30年先、本市の将来像とか、そういう中でコンテンツをやっていくという議論じゃないかと思うんです。そうじゃないと、まさにどっちが中身でどっちがアウトプットかというのがわからなくなるので。ただ、内容的に、例えばシティプロモーションを考える中で、まち・ひと・しごとの議論に反映できるものもあるでしょうし、その逆もあるかもしれないと、そういうことじゃないかなと思います。基本的には、シティプロモーションというのは、どこの市でも広報をやっていきますよね。

◎**松本委員** 広報すべき中身がないものを広報しても意味がないので、中身の充実というのは当然、表裏一体のものとして議論になるんですけれども、もう少しそこを技術的な話として整理していこうとするのがこのペーパーでやりたいことなのかなと思って眺めていたんですけれども、そうだとするともうちょっと技術的なところに入っていくことが必要でしょうね。

◎**渡邊委員長** シティプロモーションという呼び方が若干誤解を招くんだと思うんですけれども、シティプロモーションというのは市を持ち上げようということですから。けれども、先ほどのシティプロモーションの基本方針の7ページ、推進体制のところにあるように、情報の積極的な提供とか、情報発信というのがシティプロモーションにおける主たるミッションだと思うんです。そこは分けて考えたほうが僕はいいと思う。そうじゃないと、シティプロモーションと、まち・ひと・しごとがごっちゃになっては困りますよね。

◎**松本委員** そうですね。6ページにいろいろな媒体、ツールが書いてありますけれども、もうちょっとその辺の議論を整理していくと、今の話がもう少し整理されるかもしれませんね。

◎**渡邊委員長** 逆に、今日初めて出た資料ですので、もう一回よく目を通していただいて、シティプロモーションが何を目的としているかというあたりも少し見ていただいて、また議論したいと思います。

それで、一応、この委員会では総合戦略を1年延ばすということと、小金井グランドデザイン策定という名のもとでこれをやるのではないという、そのことを確認した上で中身のほうに入りたいと思います。

評価シートの件、この説明もお願いできますか。

◎**古賀企画政策係長** それでは、説明のほうをさせていただきます。評価シート3につきましては、前回の委員会での議論を踏まえまして、委員評価取りまとめの文章を一部変更しております。具体的には、「武蔵小金井駅北口」の前に「市民感覚として」という文言を追加しておりますので、御確認ください。説明は以上となります。

◎**渡邊委員長** この間、鴨下さんのほうから、ちょっと言い過ぎかなというようなことがあったんですけれども、むしろこういうのはあったほうがいいんじゃないのと。ただ、主語がよくわからなかったものですから、「市民感覚として」という言葉を入れたらいかがでしょうとい

うことで修正していただいたと。

それから、前回、問題というのか、まだ未完成というので、後での話ですけれども、評価シートの21番目がありますけれども、これについては、まだ担当部局のほうから報告がないということで、それが出てきたときに改めて議論するというにしたいと思います。

それでは、小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価シートですけれども、まず最初に基本目標、「小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち」ということで、評価シート1から15について見てまいりたいと思います。

それから、事務局のほうで議事録を作るときに、発言している人の名前がわからないと後で困るということですので、発言の際にはぜひ名前を言って、それをお願いしたいと思います。

前は全般的に数値とかを見たんですけども、今回は、評価シートの2からでいいんですか。

◎古賀企画政策係長 1は、まだ担当課から入ってきていません。

◎渡邊委員長 評価シート1はまだ担当課から来ていないので、2からということでございます。「住居専用地域の割合」ということで、ここにございます。皆さんの意見をもとにしてまとめた文章が、「計画どおり進捗しており、地区に応じたまちづくりを進めてもらいたい。なお、指標の在り方については、見直しの方向も検討する必要がある」ということでまとめていただいています。

皆さんの個々の御発言というのか、御意見も、もしここを修正したいということがあれば、言っていただければと思います。いかがでしょうか。

ちょっと私、もう一回、よく読んでみたんですけども、これ、平成26年度の目標が85.9%になって、ずっと85.9%が継続していると。こういうのって、本当にPDCAサイクルとして適正かなという感じをちょっと受けて、この「なお、」以下をつけ加えたらということ言ったんですけども、もう少し具体的に、「なお、」の後に、目標85.9%に対し、27年度から29年度まで85.9%であると。その後に、「指標の在り方については、見直しの方向も検討する必要がある」と入れたほうが具体的にかなとちょっと思ったりしたんですけども、いかがですかね。こんなものでよろしいですか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が、評価シートナンバー3です。これは、前回、鴨下委員のほうから出た御意見が既に反映されて、先ほどの改訂版、差し替え版にございますように、「目標に向け、状況の変化に対応しながら事業を進めているものの、市民感覚として武蔵小金井駅北口は後退したように感じられる。地元と連携を密にしながら継続した支援等に努めていただきたい」と、こういう格好でまとめるということでございますけれども、改めていかがですか。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が、評価シート4です。これもよくまとまっております、「地権者への対

応を丁寧に行っており、適切な延伸と考える。引き続き、話し合いに重きを置きつつ、早期完了に努めていただきたい」という格好で、この委員会としてはコメントしたいということですが、いかがでしょうか。

これ、文章を読むと結構厳しいんですね。話し合いに重きを置きつつも早く解決してよというような思いを、両方、我々としては言いたいかなという気がしますが、よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が、評価シート5です。これは「市内小売業の年間商品販売額（経済センサス活動調査）」ということです。販売目標650億に対し、29年度は860億ということで、確かに大幅に増えていると思うんですけども、「大幅に販売額が増大しており、取組は評価できる。今後も広域的な展開や来街者向けの工夫に取り組んでいただきたい」、こういうまとめです。

「販売額が増大」という言葉ですけども、増加がいいのか、僕、ちょっとひっかかったんですけども、どうですか。増加、増大、どうでもいいといえばどうでもいいんですけどね。まあ、どれでもいいですかね、事務局にお願いするということでよろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 評価シートの6番です。私、ちょっとこれ、評価シートを改めて見て、平成26年度の目標の数値が入っていないくて、あれっと思ったんですけども、先ほど事務局に伺ったら、この段階から数値は入れようがなかったということで、そのまま現在に来ているということです。これは次回のKPIの見直し等のときに、やっぱり数値が入るほうがいいかなということは考えたりしております。この委員会としては、「年々順調に定着率が向上しており、良好な進捗状況である一方、どこで活躍してもセンターで学んでもらったことに意義があり、定着率は問題ではないという意見もある」。この「一方、」以下は私の意見で、これ、取ってもいいかどうかはちょっと悩ましいんですけども、「空き家のマッチングや市内事業者等のマッチング、事業内容や形態などを紹介するなど、更に発展した取組に期待したい」ということです。

この「一方、どこで活躍してもセンターで学んでもらったことに意義があり、定着率は問題ではないという意見もある」というところ、私が言ったことですけども、小金井市が小金井市のためだけ、ばかりやっているとはかからは嫌われるかもしれないから、広くみんなのためにやっていますよという度量があってもいいかなという気がある一方で、小金井市の目標なんだから、少し小金井市のためという気持ちも僕自身はあるんですけどもね。だから、という意見も一つあったというくらいで、全体の意見ではないということで、これでいいかなと思ったりしているんですけども、いかがですか。

◎天野委員 基本的には、やはり小金井市に残っていただいて、まちの活性化につながるほうがいいかなとは思いますが、委員長がおっしゃるとおり、ほかのところでも頑張っていた

いて、小金井を応援してくれるサポーターのような方が育ってくれたら、またそれもいいかなというふうに思うので、委員長の意見に賛成です。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

じゃ、これでよろしゅうございますか。小金井市は、けちじゃないという意見もあるという。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が、資料ナンバーの7であります。これは「ホームページのアクセス数」ということです。「アクセス数の減少は残念である」と。今年は大幅に減ったのかな。「今後、他団体等との連携やQRコードの活用、SNSとの関連性も強化しながら、積極的にホームページアクセス数を増やす取組を行っていただきたい」ということです。

この「SNSとの関連性も強化しながら」というのは、何となく日本語として、「SNSと連携を図り」くらいのほうがいいかなという気が僕はちょっと個人的にしているんですけども、いかがですか。「SNSとの関連性を強化する」って、具体的にどうやるんだろということちょっと思い浮かばなかったものですからね。「関連性を強化しながら」というのを、「連携を図り」くらいにしておいていいのかなと僕は思ったんですけど、いかがですか。よろしいですか。

なお、ここでちょっと変更したときに、冷静に考えてやっていないので、最終的には、委員長と事務局のほうに変更したところのチェックを一任させていただきたいと思っておりますけれども、そこは御了承ください。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 よろしゅうございますね。

評価シートの8です。これも目標の数値がなくて、今さらですけども、リンク数がないというのはちょっとあれっと思いましたが、始めたときに評価できなかったということで棒になっている。だから、次回のKPIの見直しのときに、こういうことがないようにということでコメントを切っておいて、この内容的には、「連携に至らなかった結果は、大変残念である。様々な団体との連携は可能であろうと思うが、方向性をもって取り組んでもらいたい」ということで、皆さんの御意見を整理したということでございます。何か文言で、こうしたほうがいい。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 それでは、次、評価シートの9です。「雨による来場者数減は仕方がないところである。毎回新たな仕掛けを用意し、趣向を凝らしたイベントとすることが必須であろうと考える。また、前年度評価と同様、若者の意見を取り入れたり、ジェイコム等との連携も積極的に検討してもらいたい」というまとめであります。

私これをよく読んでみて、1行目ですか、「雨による来場者数減は仕方がないところである」というより、やむを得ないくらいでいいんじゃないかと思うんですね。「やむを得ない」というくらいにしてください。

あともう1点、ちょっと僕自身、もう1回読んで気になったところが、「ジェイコム等との連携も積極的に検討してもらいたい」と。「等」があるから、まあ、いいかもしれませんが、ジェイコムというのは公的な放送局ではあるんですけど、やっぱりプライベートな企業だから、「ジェイコム等の地域情報ネットワークとの連携」と、そういう言葉を入れたほうが公平性が担保されるんじゃないかなというふうに感じられまして、そう直していただきたいと思うんですけども、いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が、評価シートの10番であります。これは「市民交流センターの有効区分数における貸出区分数の割合」ということです。だから、市民交流センターの稼働率みたいなものですね。「安定して高い稼働率を保っている。質の向上や市のブランド力に繋がるような新しい取組に期待する」ということで、ちょっと私、気になったのが、「質の向上」って何の質だろうかなというのがちょっと気になって、イベントの質かな、そう書くほうがより具体的かなと思って、「イベントの」という形容詞をここに入れたほうがいいんじゃないかなと思ったんですけども、いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が、評価シートの11です。これは「はけの森美術館にて開催した展覧会の観覧や、ワークショップ等に参加するために入館した方の数」でございます。「来場者数の減少傾向は残念であるが、プレ企画や附属喫茶棟との連携など、来場者の裾野を広げる工夫がみられる。観光協会や周辺施設との連携も視野に入れ、引き続き改善策を検討してもらいたい」という格好でまとめています。

これでいいと思うんですけども、これが「入館した方の数」とあるから、「来場者」というよりは「入館者」のほうが指標との文言の対応で一貫性があるかなと思うので、そう直したほうがいいんじゃないかなと思います。いかがでしょうか。いいですね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が、評価シートナンバー12番でございます。これは「休日の9時から17時までにおける市内の滞在人口」ということでございます。前回、質問があった件でございます。「年度の目標は達成されており、色々な取組を行った点が評価できる。若者の意見を取り入れたり、転入者・子どものいる世帯をターゲットにするなど、他自治体の事例も参考にしながら積極的な仕掛けづくりを引き続き行ってもらいたい」というまとめでございます。

内容的にはこれでいいと思います。ただ、僕、ちょっと広辞苑を今日、引きまして、「色々」という言葉にちょっとひっかかったものですから、「色々」って調べたら、さまざまな色が第1の言葉らしくて、むしろ、これ、「様々」のほうが適切かなと。広辞苑を見る限りは、「様々」のほうが適切と思って、そう直したほうが委員会の格が下がらないかなというふうに思いました。いかがですか。よろしゅうございますね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

次が、評価シートの13です。これは「市民協働支援センター準備室で受けた相談件数」であります。「相談件数が順調に増えており、市民への認知が進んでいる点の評価をしたい。今後は、長期的な視点をもって、着実にセンター整備を進めていただきたい」ということでもありますけれども。

ちょっとここをよく見たら、27年度から28年度の増加率は28%なんです。115件から147件で、ここは増えているんですね。計算してみたら、115を分母として、147引く115を分子として計算して28%。次が、実は152件で、147件から152件、5件しか増えていないんですね。パーセントにすると3%なんです。それを考えたときに、市民相談件数が順調に増えていると言えるのかなという気がいたしまして、ちょっと事務局とも事前に相談したんですけれども、「27年度から28年度で28%と、28年度から29年度で3%と、頭打ちになっている中では市民への認知が進んでいると考えられる。今後、長期的な視点に立って、着実にセンター整備を進めていただきたい」というくらいのほうが、この数値に対しては正確じゃないかなと。順調に進んでいるとはなかなか言いにくいかなという気がしたので、数値を入れて書いたほうがいいんじゃないかと思うんですけれども、いかがですか。よろしゅうございますね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 それから、14番。「国際交流事業に参加した人数」ということで、「参加者数は少なくはないが、例年と事業に変化がみられず残念である。新しい事業や既存事業を発展させた展開など、同じ人が毎年参加したくなるような工夫をしてもらいたい」ということでございます。

これ、参加人数を見ると目標人数に達していない、かつ、ちょっとずつ減っているということとを最初に持ってきて、「例年と事業に変化がみられず残念である」という言葉の形容詞に、目標に達していないのと、低減、減少といったちょっと減っているという言葉を入れてもらって、「新しい事業や既存事業を発展させ」という言葉につなげたほうが現状を正確に反映するかなと思います。いかがですか。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次に15番。これが「審議会等における構成委員のうち、公募市民が占める割合」ということでございます。「割合は微増しているものの、公募市民の増加には様々な課題があるように思う。提言の実現を始め、審議会終了後の継続的連携など、新たな働きかけを進めてもらいたい」と。

これを読んだときに、私は、「市民の増加には様々な課題があるように思う」ということにちょっと引っかかりを感じまして、これは小川委員の「公募率を向上させることが一部団体の意見反映にならないようにしたい」ということかなというふうを受けとめまして、この「公募市民の増加には様々な課題があるように思う」というのがいろいろな解釈ができるかなという

ことで、ここを少し変えたほうがいいかなというのと、「割合は」とありますけれども、「公募市民の占有率は」とちゃんと書いたほうがいいかなと思いました。微増しているものの、問題があると思うということで、「公平に民意が反映できるような配慮の下で」というような言葉にすれば、小川委員の言いたいことが正確に反映できるのではないかなと思って、したがって、「公募市民の占有率は微増しているものの、公平に民意が反映できるような配慮のもとで、提言の実現を目指し、さらに審議会終了後の継続的な連携など、新たな働きかけを進めてもらいたい。」

この後段のところは、例えば、この委員会が終わっちゃったら、まちで会ってももうみんなさよなら、というんじゃないくて、何かの機会に顔を合わせて議論するというようなことができればいいねという思いを表現したつもりですけれども、ちょっと文面、正式には事務局にお願いするというので。

以上が、15までが「小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち」という大きい柱の項目でございます。ちょっと文言上の細かい修正ですけども、次回までにちゃんとした形でということで、全体としていかがでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎渡邊委員長 そうしたら、次に、「多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち」ということで、評価シートでいうと16からです。これは「保育所等への利用の申込みをしているが、定員超過等により利用できていない児童数」ということであります。児童数で見ると164、154、156ということでもありますけれども、認可定員はすごく増やしたんですね、324人ということで。これ、「例年に引き続き、大幅に定員増を実現した点について評価したい。今後も目標達成のための計画的な取組が重要であるとともに、児童数や状況の変化に即応できるよう、様々な検討を進めていただきたい」ということです。

ちょっと僕が気になったのは、「大幅」という言葉が、何をもって大幅というのがちょっとわからない。1行目ですね。「前年に引き続き、324人の定員増の実現は評価したい」というくらいの単純な表現がいいんじゃないかなと。ちょっとこの324というのは結構大きい数値だと思うので、クローズアップしたほうがいいんじゃないかなというので、そうしたほうがいいんじゃないかと思うんですけども、いかがですか。よろしゅうございますね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 17番目。「認定こども園の設置数」ということでございます。今まではゼロ、ゼロだったのが、1に増えたということで、目標が1ですから、「目標を達成し、素晴らしい成果と考える。より安定的かつ魅力的な園の運営ができるよう、支援していただきたい」という評価ということで、これはこのままでいかがかということ。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 評価シートの18です。これは2つあるんですかね、「小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会の加入団体数」と「要保護児童対策地域協議会の参加機関数」という

2つがあるんですね。これがどうかということで、上のネットワークのほうは数がすごく増えているんですけども、要保護児童対策のほうは44で、ずっと同じだということでございます。「ネットワーク協議会については、順調に増加しており評価したい。要保護児童対策地域協議会については、一概に増やせば良い指標ではないが、ネットワーク作りにより一層力を注いでもらいたい」という書き方です。

この「ネットワーク作りにより」というのが、同じネットワーク協議会のネットワークとかぶってしまっていて、ここは誤解を招くとまずいかなと思って、僕が書いたんですけども、「ネットワーク作り」というのはなしにして、「良い指標ではないが、より一層力を注いでもらいたい」と、「ネットワーク作りに」というのを省いたほうが誤解を招かないかなという気がいたします。いかがですか。いいですね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次、評価シートの19番です。「一週間における開催回数」ということで、子どもの育ち・学びのための環境の充実、冒険遊び場開催回数です。「継続開催を続け、参加者も増加しており、順調な取組状況である。安全性を高めつつ参加者数を維持できるような工夫を、皆で話し合いながら進めてもらいたい」と。

ちょっと私、この「皆」って誰かなと思ったんです。だから、「関係者」くらいのほうがいいのかな。関係者で話し合いながら進めてもらいたいと、そのほうが具体的かなと思うので、そう直したほうがいいと思うんですけども、いかがですか。いいですか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 それで、評価の20番目でございます。これは「推進委員会形式により放課後子ども教室を開催した件数」ということで、9件、9件、9件であります。「安定した継続運営ができています。今後は情報共有や管理体制を構築しながら、更に発展的な事業の充実を図りたい」ということで、これは小学校の数ですから変えようがないので、9件ということで、これでいいのかなと。

それから、評価シートの21番目は、これは今日議論する必要はありますか。

◎古賀企画政策係長 今日飛ばしてください。

◎渡邊委員長 新たなシートが出てから議論するというので、今日はこれを飛ばしていただきまして、評価シートの22番目、これは「ボランティア活動に取り組んだ児童生徒の割合」でございます。「小・中ともに高い割合を維持している。今後は、親子で参加できる内容、教員・保護者への意識改革、養成講座参加のポイント化など多様な検討を進め、ボランティアに参加したい子どもの心を引き出せる工夫をしてもらいたい」ということです。

ちょっと私、引っかけたのが、ボランティアに参加したい子どもたちの心を引き出すって何かなというのがちょっとわからなくて、むしろ、参加したい子どもが一步踏み出せるような工夫をしてもらいたいというほうがぴんとくるかなという気がして、そう直したらいいかなと思うんですけど、いかがですか。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 23番。「創業相談件数」でございます。「情報発信に取り組み、順調に件数が増加している。指定管理者や他団体と具体的な協力策を講じ、更なる支援に取り組んでいただきたい。また、金融機関との連携実績や創業数についても、今後示してもらいたい」ということがありました。

ちょっと私、文言上で気になったのが、「情報発信に取り組み、順調に件数が増加している」と。この情報発信に取り組んだために順調に件数が増加しているのであれば、「、」が要らないかなと。「、」があると、情報発信に取り組んだことと、もう一つ、順調に件数が増加しているということが何かパラレルに読めて、ちょっと頭にすっきり入らなかった。あるいは「、」を入れるんだったら、「情報発信の取組が強化され」とかであれば「、」が入ってもいいかなという気がして、先ほど事務局にちょっと言ったのは、「情報発信の取組が強化され、順調に件数が増加している」というほうがいいんじゃないかなということ。

あと、「また、金融機関との連携実績や創業数についても、今後示してもらいたい」ということですけれども、「また」は要らなくて、「また」の代わりに「今後」をそこに入れたらいいのかなと。「今後、金融機関との連携実績や創業数についても示してもらいたい」というと2文字減るので、いかがですか。よろしゅうございますかね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 評価シート24。「各年度の4月1日現在の行政委員会及び審議会等における女性委員の割合」ということです。「参画率を短期間で向上させることは難しいとは思いますが、開催日の配慮や女性が問題意識を持つであろう会議のPRに努めるなど、できることから取り組んでもらいたい」というまとめでございますけれども、これは、僕自身も、日本語も問題ないかなと思って、これでいいかなと思っていますけれども、よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 この「多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち」の最後です。25番、「男性職員の育児休業取得率」ですが、「順調に数値は伸びている点は評価できるが、職員の子育て世代の構成人数などの影響もある。単純な数字の伸びだけでなく、市民サービスの維持を前提とした制度づくりと、より一層の職員意識改革に努めていただきたい」ということです。

これは単純な文字の問題ですけれども、「順調に数値は伸びている」という数値は、これは割合ですから、「割合が伸びている」とやってもらったほうがいいかなと。そして、その下の5行目のところに、「単純な数字の伸び」というのは、数字は数字ですけど、字です。字であって数じゃないですから、これは「数値」になると思うんですね。「数字」じゃなくて、「数値」が伸びていると。これは、僕は計測屋で、数値や数についてうるさいものですから、ここを直したほうが間違いないと思いますので、ここを提案します。よろしゅうございますね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 それで、2番目の柱は終わりました、3番目、「時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち」ということが評価の26からございます。

この評価シートの26は、最初の評価シートの2と全く同じものですね。

◎古賀企画政策係長 はい、そうです。

◎渡邊委員長 ですから、これは既に終わりということですよ。

それで、評価シート27です。これは「手すりの設置、段差解消、便器の洋式化、浴槽の取替え及び流し・洗面台の取替えなどの高齢者自立支援住宅改修給付事業の給付件数」ということです。「昨年度の評価でも記載したが、利用者数が増えない理由について検討し、事業内容の見直しに繋げていただきたい。また、民間企業やNPO法人とも連携し、事業の普及にも努めてもらいたい」ということで、これが本当の単純な文言の問題ですけど、2行目の「利用者数が増えない」とあるけれども、指標の説明のところでは「給付数」になっているので、合わせたほうがいいのかなどと思ひまして、「給付件数が増えない理由について」と。そうしたいと思ひますけれども、いかがですか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が28番、「C o C oバスの利用者数」で、「総合的見直しによる利用者数」ということであります。「次年度に向けた課題・取組は適切である。様々な意見から利用状況の把握及び課題抽出を行い、適切な見直しを行っていただきたい」ということですが、「様々な意見から利用状況」というよりは、「利用実態」のほうが正確かなと僕は思ったんですね。

「利用状況の把握及び課題抽出」とあるけど、「様々な意見から利用実態・課題を抽出し」と単純にしちゃったほうがいいのかなどと思ひました。いかがですか。一応、人の論文を読むときのつもりでちょっと。よろしゅうございますね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 29番です。「市内で町内・自治会等の地域組織が自主的に結成した防災組織の数」ということであります。「団体数は増えなかったが、今後一層重要性が高まるテーマであり、積極的な取組が必要である。会社へのアプローチや大学との連携強化など、様々な検討を行ってほしい。また、他市の事例（立川災害ボランティアネット）なども参考にしてほしい」と。

内容的にはこれでいいと思うんですけども、文言上の問題で、「団体数は増えなかった」とありますけれども、この評価指標の説明では「防災組織の数」になっているので、団体というよりは、「防災組織の数」と入れたほうが厳密かな、と思ひます。

それから、上から4行目のところに、「会社へのアプローチや大学との連携強化など」と、これは松本さんの提案も受けていると思うんですけども、ここのところ、本当にちょっと簡単なことですが、小金井市は、ご存じのように小金井にある大学と連携協定を結んでいるんですね、農工大、学芸大など。実はそれだけじゃなくて、専門学校とも連携協定を結んでいるんですね。ですから、「大学との」というところを「大学等」として専門学校も入れて、

「大学等教育・研究機関との連携」とすると、今、小金井市でやっていることも含むし、松本さんが提案された、大学の研究室でこういったことをやっているということもより具体的に反映できるかなということで、ちょっとした変更ですけれども、これにしたほうがいいんじゃないかと提案したいと思いますけど、よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 それから30番、「1月から12月までの刑法犯の認知件数(警視庁発表)」ということで、「順調に件数減を達成しているが、増加している犯罪もあることから、関係機関との連携を図りながら、引き続き対応の強化に努めてもらいたい。また、発生事件の情報提供については、更に効果的な提供方法を検討していただきたい」とあります。

ちょっと文言的に、「順調に件数減を達成している」、何か達成するというのは目標があって目標を達成する。「減っていることを達成する」というのはちょっと日本語として不自然かなという気がしまして、ちょっと私が考えたのは、この指標のところにある、「刑法犯の認知数については目標件数を達成し、更に件数を減らしているが、増加している犯罪もあることから、関係機関と連携しながら」と、だから「順調に」というところをもう少し、刑法犯の認知数について目標件数に達して、更に件数を減らしている、というふうにしたほうが正確かなと。

「関係機関との連携を図りながら」というところも、「関係機関と連携しながら」と、単純にそれでいいかなと。このほうが日本語の文章として素直かなと思います。いかがですか。いいですかね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 すみません。31番。「認知症サポーター養成講座受講者数」ということでございます。「順調な結果であり、大変評価できる。若い世代を含めた地域全体で、正しい理解と対応を学ぶ場づくりとなるよう、今後も取り組んでいただきたい」ということです。

この「順調な結果であり」というのをもう少し具体的に書いたほうがいいかなということで、「受講者数は目標数を超え、更に増加しており」と。目標数を超えておりますので、こうやったほうが「順調な結果であり」という中身を具体的に説明しているかなと思いますので、そうしたらどうだろうかという提案です。いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 それから、32番、これが「地域密着型サービス事業所数」ということで、「事業所数が減少した点は残念に思う」と、これは減少している。「地域密着型が増えるよう、理解しやすい制度づくりや改修補助など、新たな工夫について検討してもらいたい」ということです。

私が、この「地域密着事業所数」と「改修補助」ということがちょっと頭の中で結びつかなかったんです。多分、事業所が改修補助をやるんだらうと思うんですね。ちょっとこの「改修補助など」の前に、「この事業に資する」という言葉を入れたほうが素直かなと思ひまして、いかがですか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

33番。「小金井さくら体操」自主グループ活動の参加者数」ということでございます。これはうんと評価したいと思うんですけど、「取組が結果に繋がっており、素晴らしい成果である。増やしたイベントの効果も検証しながら、ジェイコムとの連携や周知への工夫にも取り組んでいただきたい」ということでございます。

取組の成果につながっているという前に、「目標人数を超え、かつ堅調に参加者数が増え」という形容詞を入れたほうが、この人数の増え方からいうと適切かなという感じがしますので、そういう形容詞を入れたいということです。それが1点と、それから、「ジェイコムとの連携や周知への工夫」ということですが、やっぱりジェイコムというのは一企業ですから、「ジェイコム等地域情報ネットワークとの連携」ということを入れたほうが文句は出ないのかなという気がして、それは直してもらったほうがいいと思います。と、提案ですけど、いかがですか。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 34番。「65歳健康寿命の延伸」ということで、「多くの要素を含む指標であり、評価も難しいところであるが、健康寿命延伸に欠かせない受診への働きかけは、まだ改善の余地があるように思う。市内民間医療機関との連携や高頻度に検診することの重要性の啓発など、更なる工夫に期待したい」と、こういう格好でまとめております。

日本語としては問題ないかなと僕は思って、これでいいと思うんですけども、いかがですか。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が35番、「スポーツ教室・スポーツ大会の参加者数」。「2020年の東京オリンピック・パラリンピックを一つのきっかけと捉え、他市と連携したり、候補選手を招へいするなど、新たな展開を検討してもらいたい。また、参加者が減少しているイベントについては、その原因分析や対策を講じてもらいたい」とあります。

参加人数が目標値にちょっと達していないんですね。4,000名くらい足りない。そのことをちょっと加えて、「目標人数に達していないが」くらいを入れておいたほうがいいかなという気がします。いかがですか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次、36番。「高齢者いきいき活動講座延べ参加申込者数のうち、実際に講座に参加した者の延べ人数」ということです。これも「延べ人数」となっているのに、何でパーセントかななんてちょっと今さら思ったんですけども、でも今回はそう決めているから、これで行くということで。次回のキー・パフォーマンス・インデックスのときの検討課題というふうにして。

「D評価ではあるが、場所の制約がある中で、講座内容の見直しによる参加率アップは、そ

の努力を評価したい。市民ニーズを捉えつつ、座学以外の取組や他市との共催など、内容の工夫に努めていただきたい」ということでまとめていただいております。

D評価ということをしているわけですがけれども、いろいろな制約の中でやっているんだからということの評価したいということで、これでいいかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が、37番。「ボランティアセミナーに参加した人数」です。「参加者数が逡減しており残念である。NPO等との連携を検討したり、学校や地域団体へ広報協力を仰ぐなど、他団体との取組も今後検討していただきたい」ということです。

私、浅学で「逡減」という言葉の正確な意味がわからなくて、広辞苑を引いてみたんですね。「逡減」「漸次減る」「漸減」でもいいかなとかいろいろ思ったんですけども、引いてみたらこれ、ちょっと市民は、僕はわからなかった、時間とともに減るという言葉で「逡減」というふうに使うらしいですね。だから、内容的には正しい。ただ、市民がこれを読んでわかるかなという疑問をちょっと思ったんです。「漸減」でもいいかなと。皆さん、よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

38番。「図書館における住民1人当たり図書貸出冊数」です。「図書館に求められる機能は多く、設備運用面も改善が求められているところであり、答申を受けて今後どのような検討が進むのか期待したい」ということでございます。

これはこれでいいかなという気もするんですけども、いかがですか。いいですか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 最後、39番です。「公民館の平均稼働率」ですね。「NPOや若者のためだけでなく、幅広い市民が活用できる施設となるよう、更に魅力的な事業を検討していただきたい」ということでありますが、目標が67%なので、これに達していないんですけども、視点として付け加えたほうがいいんじゃないかと思ったのは、今、NPO法人に委託されていて、67.3%というのは稼働率としては、今さらですけどもちょっと低いかなと。目標値としてやはり8割とか9割くらいは行ってほしいという感じがあります。視点としてもう1点付け加えたらどうかと思うのは、市民協働という概念、「市民協働でこの稼働率を上げるような取組を強化したい」という文言を入れて、次に目標値を設定するときには、67.3%なんてしないで、80%とか90%ぐらいにしてもらおうという前向きなコンセプトを入れたらどうかと思うんです。

だから、この文言の最後に、そういう意見は出なかったんですけども、文面はちょっと考えてもらおうとして、内容的には、「市民協働でこの稼働率をもっと上げることを工夫してもらいたい」という文言をつけ加えたらどうかと思うんですけども、いかがですか。つけ加えていいですか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

これで大体終わりです。委員会として、事務局が作ってくれた文章を少し直さないと、委員会は何をやっているんだ、と言われるかもしれないと思ひまして、ちょっと余計なことだったかもしれませんが、日本語としてもより正確に、内容的にも正確に理解できるように、私のほうからいろいろ提案させていただきました。

そういうことで、全般的に何か御意見ございませんか。これでよいということで、皆さんよろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 では、これらについて一応ここで審議して、ここで提案された修正事項も含めて、委員会は審議したということにさせていただきたいと思ひます。ありがとうございます。

なお、この文言の具体的なところはきちんと事務的に精査してもらわなければいけないと思うので、それは修正していただいて、一任というのか、委員長と事務局にお任せさせていただきたいんですけども、それもよろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

そうしますと、今日の主要課題である第2議題が終わるということでもあります。

---

◎渡邊委員長 今日の議題の3番目、「次回の開催日」についてということでございます。事務局のほうからお願いいたします。

◎古賀企画政策係長 次回の日程ですが、10月下旬の開催を予定しております。具体的には10月22日以降の平日でお願いできればというふうに考えておりまして、現時点で事務局として都合が悪いところが23日となっております、10月22日以降ですと、23日以外の平日であれば事務局としては可能となっております。

本日、小川副委員長と沼崎委員が欠席されておりますので、できれば、本日出席されている委員の皆様方で候補日を2日くらいに絞っていただきまして、後日、開催日時につきましては、その欠席されているお2方と事務局のほうで調整させていただきまして、最終的に決定をさせていただければというふうに考えております。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。日程調整のため休憩に入ります。

(休憩)

◎渡邊委員長 それでは、再開します。10月24、26、30、31日を候補日として、2人の委員の可能日を勘案してもらって、なるべく早い段階で予定日を事務局で決定していただくということにしたいと思います。

そういたしますと、今日の議題というのは全て終わりということでもあります。

次回が先ほどのシティプロモーションの件ですね。

◎松本委員 1点だけ確認させていただけますか。内容の話なんですけれども、シート番号5番で、「武蔵野市、三鷹市と一体となった観光地域づくり」と書いてあるんですけれども、これは現に動いていることなんですか、それともこれから考えていらっしゃるのでしょうか。武蔵野市と三鷹市と、それから小金井市が一体となって観光地域づくりをするのか、あるいは、既にできているんですけども、さらにそれを何か運用を強化していくということを言われているのか、実際がどうなのかということをお教えしてもらえませんか。

◎古賀企画政策係長 こちら、経済課が主体となって行っているんですけれども、現時点で既に動いているというところです。

◎松本委員 どういう内容ですか。

◎古賀企画政策係長 例えば別事業になりますが、小金井市では江戸東京でおもてなし事業という江戸東京たてももの園やその周辺をメインに行っている事業があります。都外の方とかが観光で小金井市内を訪れた際に、特定の場所だけを訪れてそのままお帰りになるということではなく、その周辺や関連施設を回遊していただくというような事業がありますが、同様の研究を行っております。

◎松本委員 逆に言えば、三鷹に行った人が、小金井のほうでもこんなものがあるよというのが、とっかかりができるということですか。

◎古賀企画政策係長 でき上がってはおりませんが、そういった研究を行っているというようなところのようです。

◎松本委員 何か具体的に紙に書かれているものはありますか。

◎古賀企画政策係長 そこはちょっと経済課のほうに確認してみないと分かりません。

◎松本委員 あれば教えてください。

◎古賀企画政策係長 はい。確認します。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

では、第2回の小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会、長い名前ですけれども、終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

(午後8時11分閉会)